

「知の創造」を柔軟かつダイナミックに支援

京都大学学術研究展開センター (KURA)

研究力の向上を図るためには、グローバルな視点で学内外の研究動向を十分に把握したうえで研究者間の橋渡しを行い、研究活動を活性化できるリサーチ・アドミニストレーター (URA) が不可欠です。本学では、KURAの設置を通じて、高度な専門性を持つURA人材を育成する体制を整備するとともに、融合研究の推進と研究力強化、研究の国際化、産官学連携および大学経営戦略の企画・立案にかかる支援などを一層強化しています。



京都大学アカデミックデイについて
research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/



京都大学アカデミックデイの開催

大学内外の垣根を越えて、誰もが学問の楽しさ・魅力に気付くことができるイベントで、2011年度より毎年開催しています。研究者が国民の声を研究に反映できるように、KURAでは研究者と国民の「対話の場」を提供するだけでなく、研究者が研究活動をわかりやすく説明できるようきめ細かなサポートも行っています。2023年度は9月24日(日)に、アカデミックデイ単独では初めて、ゼスト御池(京都市役所前地下街)で開催。研究者と立ち話、ちゃぶ台囲んで膝詰め対話、お茶を片手にトーク◎トーク、研究者の本棚という4つの企画で彩られた会場では、出展研究者132名、来場者880名(受付通過人数)による直接対話が随所で繰り広げられ、過去最高の盛況となりました。

2024年度は9月21日(土)にゼスト御池で、11月2日(土)に京都大学百周年時計台記念館で、2回にわたって開催予定です。

学内ファンド:いしずえ

科学研究費補助金(科研費)は、基礎から応用まで様々なステージや規模の学術研究を助成するために、研究者に対して提供される公的な資金です。いしずえは、その科研費申請において、より規模が大きい申請種目へのステップアップを目指しながらも残念ながら不採択だった研究者を対象に、不採択年度の間の研究資金を支援する京都大学独自のファンドです。いしずえがセーフティネットとなって科研費への挑戦を後押ししたり、科研費が受けられなかった期間も途切れることなく研究を続けられるように支援しています。さらに、KURAでは、そうした資金面の支援だけでなく、申請にかかる研究構想の相談や申請書の作成支援まで、きめ細やかな支援を行っています。

いしずえは2013年に開設されて以来、研究フェーズや年齢層に応じた効果的なファンド構築を目指して、毎年改良を加えながら運営してきました。今後も、限られた学内予算をより効果的に活用できるよう、改善を重ねながら研究者のさらなるステップアップを支援していきます。

創造的な研究のさらなる発展を目指す研究者の科研費獲得を研究資金面から後押し

- 科研費申請において残念ながら不採択だった研究者に、次年度の科研費申請への再挑戦と、科研費採択後のスムーズな研究開始・研究加速をサポート
- プレアワード支援事業とも連携し、研究内容にまで踏み込んだきめ細やかな支援を実施

いしずえ支援実績(過去5年間)

2020年度 43件 (翌年度科研費17件採択、翌々年度科研費13件採択)
2021年度 40件 (翌年度科研費16件採択、翌々年度科研費7件採択)
2022年度 56件 (翌年度科研費18件採択)
2023年度 43件
2024年度 71件



KyotoU Future Commons

京都大学の研究活動と社会貢献を結びつけるためのハブサイトを2023年に公開しました。このサイトでは、環境保全、生物多様性、防災、再生可能エネルギーなど、本学研究者が中心になって進める多様な研究成果やプロジェクトを紹介し、それらが社会課題の解決にどのように貢献しているかについてまとめています。

大学の研究者が取り組むプロジェクトを広く公開することで、企業、自治体、一般の人々と連携するためのプラットフォームとなり、同じ課題意識を持つ企業や自治体と研究者との連携を広げて、新たな研究プロジェクトの創出を目指しています。

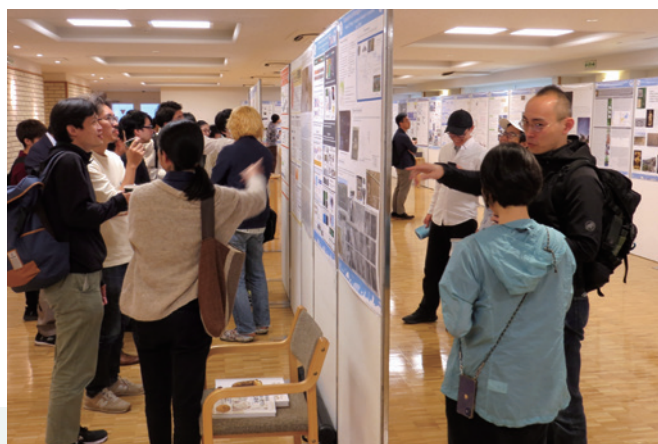
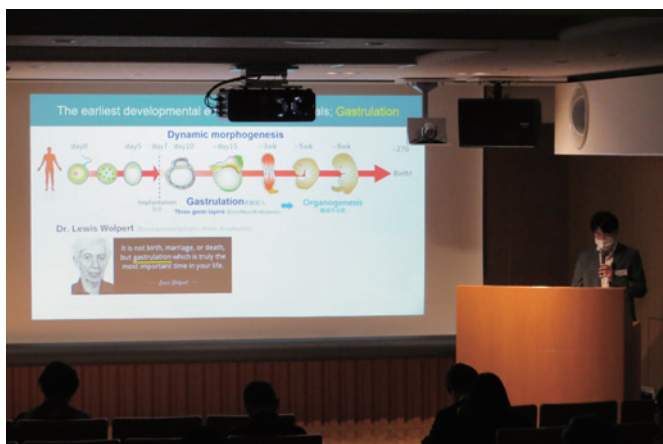
KyotoU Future Commons ウェブサイト
commons.research.kyoto-u.ac.jp/



若手研究者の採用促進：白眉プロジェクト

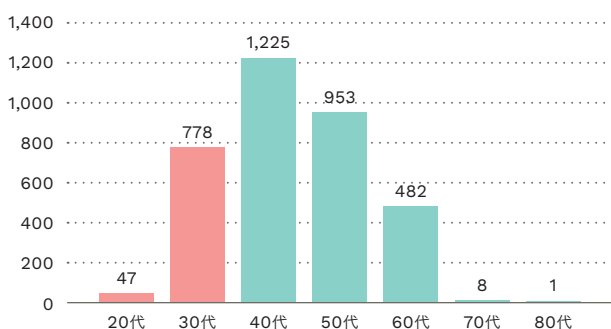
自由闊達で独創的かつ挑戦的な課題研究に取り組む若手研究者に、自由な研究環境を与えて支援する「白眉プロジェクト」は、創設以降、10余年にわたり京都大学独自の取組として実施しており、国内外から高い評価を受けています。

学術領域を問わず世界中から若手研究者を募り、これまでに採用された白眉研究者の総数は2024年4月現在で233名（文部科学省「卓越研究員事業」を活用した20名を含む）に上り、多種多様な分野の研究者がそれぞれの研究を恵まれた環境で実施し、将来を見据えた幅広い視点と好奇心に根ざした独自の研究を実施しています。



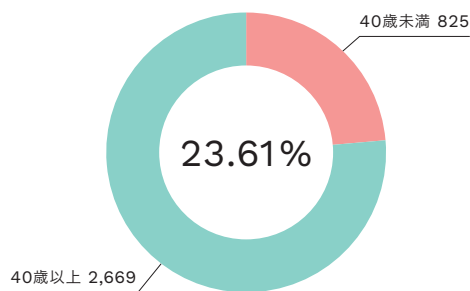
年代別定員内・特定教員

2024年度



40歳未満の定員内・特定教員の割合

2024年度



データ基準日:2024年5月1日 出典:DWH

※特定研究員、外国人教師及び招へい研究員並びにTA・RA・OA等学生の雇用者を除く。